

「いつ」・「どうやって」逃げるのか - 洪水編

洪水・水害が発生すると、あふれた水は道路などを流れて、平野部が浸水します。少しの水位でも、流れがあるとそこを歩くことができなくなります。また、水に浸かっている場所では地面が見えなくなり、用水路やマンホールのふたが開いている場所など非常に危険になります。

いつ逃げるのか

気象情報と雨の降り方に注意しましょう

静岡県地方気象台（令和2年8月6日現在）

■ 警報・注意報発表基準表

| 警報 | 大雨 | 表面雨量指数基準 | 20(浸水害) |
|------------|----------|----------------------------------|-------------|
| | | 土壌雨量指数基準 | 154(土砂災害) |
| 洪水 | 流域雨量指数基準 | 大場川流域:24.2 来光川流域:12.2 柿沢川流域:12.7 | |
| | | 表面雨量指数基準 | 11(浸水害) |
| 注意報 | 大雨 | 土壌雨量指数基準 | 106(土砂災害) |
| | | 洪水 | 流域雨量指数基準 |
| 記録的短時間大雨情報 | | | 1時間雨量:110mm |

・大雨によって災害が起こるおそれのある時は【(大雨・洪水)注意報】、重大な被害が起こるおそれのある時は【(大雨・洪水)警報】、さらに重大な被害が起こるおそれが著しい時は【大雨特別警報】を発表して警戒や注意を呼びかけます。
 ・数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を観測・解析した時には【記録的短時間大雨情報】を発表します。この情報が発表された時は、土砂災害や浸水害、中小河川の洪水害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味します。

■ 雨の強さと降り方

| 1時間雨量 | 80mm以上 | 50～80mm | 30～50mm | 20～30mm | 10～20mm |
|-----------|-------------------------|--------------------|------------------|------------|--------------|
| 予報用語 | 猛烈な雨 | 非常に激しい雨 | 激しい雨 | 強い雨 | やや強い雨 |
| 人の受けるイメージ | 息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。 | 滝のように降る(ゴーゴーと降り続く) | バケツをひっくり返したように降る | どしゃ降り | ザーザーと降る |

避難情報を聞いたら逃げましょう

■ 避難情報と警戒レベル

| 警戒レベル | 状況 | 住民が取るべき行動 | 行動を促す情報 |
|-------|--------------|--------------------|-----------------------|
| 5 | 災害発生または切迫 | 命の危険 直ちに安全確保 | 緊急安全確保 |
| 4 | 災害のおそれ高い | 危険な場所から 全員避難 | 避難指示 |
| 3 | 災害のおそれあり | 危険な場所から 高齢者らは避難 | 高齢者等避難 |
| 2 | 気象状況悪化 | 自らの避難行動を確認 | 気象庁の大雨・洪水注意報など |
| 1 | 今後気象状況悪化のおそれ | 災害への心構えを高める | 気象庁の早期注意情報 |

同報無線（広報かなみ）の放送内容は、
同報無線テレホンサービス（0120-652-505）
 で、ご確認ください。

どうやって逃げるのか

避難行動判定フロー

あなたがとるべき避難行動は？

ハザードマップで自分の家がどこにあるか確認し、印をつけましょう。

●ハザードマップ（35～44ページ）は浸水などが発生するおそれの高い区域を着色した地図です。ただし、着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。

家がある場所に色が塗られていますか？

いいえ

色が塗られていなくても、周り比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、町からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

はい

災害の危険があるので、原則として、自宅の外に避難が必要です。

例外

※浸水の危険があっても
 ①洪水により家屋の倒壊又は崩落してしまうおそれの高い区域の外側である。
 ②浸水する深さよりも高いところにいる。
 ③浸水しても水が引くまで我慢できる、水・食料などの備えが十分にある場合は自宅に留まり安全確保することも可能です。

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

いいえ

はい

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親せきや知人はいますか？

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親せきや知人はいますか？

はい

いいえ

はい

いいえ

警戒レベル3が発令されたら、安全な親せき宅や知人宅などに避難しましょう。（日頃から相談しておきま

警戒レベル3が発令されたら、町が指定している指定緊急避難場所に避難しましょう。

警戒レベル4が発令されたら、安全な親せき宅や知人宅などに避難しましょう。（日頃から相談しておきま

警戒レベル4が発令されたら、町が指定している指定緊急避難場所に避難しましょう。

最新の情報と周囲の状況から、今しかないと判断したときが逃げるときです。

避難に対する基本的な考え方

◆自らの判断で避難行動を～危険を感じたらすぐ避難しよう～

近年、台風による大雨などにより逃げ遅れた住民が被害を受けるケースが多くあります。特に突発的な集中豪雨では、町の避難に関する情報が間に合わない場合もあるため、危険を感じたときには自らが判断し、避難行動をとる必要があります。風水害では、事前に気象情報などを入手することができるため、正しい情報の入手と早めに避難行動をとることも重要です。なお、**風水害時避難場所では、原則として物資の配布は行いません**ので、必要なものを持参して避難してください。

- 優先① 早めに安全な親せき・知人宅、自治会館などへの避難
- 優先② 町が開設する風水害時避難場所へ避難
- 優先③ 避難することが、かえって危険なときは屋内安全確保

◆屋内安全確保～命を守る最低限の行動とは～

大雨のときには、上記優先①、優先②のように早めに安全な場所へ避難する「立ち退き避難」が原則です。しかしながら、夜間や急な大雨などで家の外に避難することが、かえって危険なときは、崖や川から離れた2階以上の部屋で安全を確保するなど、命を守る最善の行動をとることが重要です。

通電火災に注意

家屋浸水などでコンセントや電気製品が濡れているところに通電した場合は、火災になることがあります。避難などで自宅などを離れる際は、電気ブレーカーを落としましょう。

避難する判断ポイント

◆大雨時には早めの避難

崖の近くや溪流沿いなどに住んでいる人は、大雨の際や土砂災害警戒情報が発表されたときには、早めに近くの風水害時避難場所などの安全な場所に避難しましょう。

◆暗くなる前に避難

夜間に大雨が予測される際には、暗くなる前に避難することが安全です。特に高齢者などの災害時要援護者がいる場合は、移動時間を考えて早めに行動しましょう。

◆避難情報が発令されたとき

町から避難に関する情報が発令されたとき